



みらいのまなび共創会議

ICT CONNECT 21

Collaborative Open Network for New Educational Concepts with Technologies

CBT SWG/SIG 活動報告

2018/6/22

CBT SWG/SIGリーダー

劉 東岳

CBT: Computer-based Testing

- CBT(Computer-based Testing) SWGは、コンピュータやモバイル端末などのデジタル機器を使って問題を出題するテストの実施方法について、国内外での活用実態や技術課題などについて情報共有・調査・検討を行います。
- 技術標準WG連続セミナー第2回(2017年7月10日)にて、一般向けにCBTとその関連技術を紹介する発表を行いました。
 - 1) CBTとは何か ~CBTの考え方と社会の多様性~
 - 2) QTIの概要とTAOの海外における事例紹介
 - 3) 記述解答採点におけるAI応用の現状と将来

CBT普及の社会的背景

- 社会の変化： ICT技術の発展＋グローバル化
 - 学びのICT化(学習環境や教材)
 - ⇒ 評価のICT化(テストやアセスメント)
 - 学びの個別化・多様化
 - 新たな学力観・能力観
 - 就業・学びの機会のグローバル化
 - ⇒ 国家間の能力規格競争(デファクト・スタンダード)

CBTの利点（紙テストとの比較）

• 3つのレベル

- 問題： 紙に印刷できないような問題形式
- 試験： 問題プール、適応型などの複雑な出題ロジック
- 制度： オンライン・専用会場での柔軟な運用体制

* これらの利点を享受する場面では、IRT(項目反応理論)を前提とする仕組みが必要になることが多い。

* IRTとはテストの結果を解釈する理論の一種で、得点の中身(どの問題に正答したか)を考慮する数理モデルに基づくため、異なるテスト(異なる問題)の結果を比較することが可能になる。

CBTの普及状況

- 高等教育・社会人教育・資格試験
 - 国内CBT会場では年に300万試験ほどが実施されている
 - 受験スケジュールに柔軟性が求められる市場
- 初等中等教育
 - 国内では極めて限定的
 - 今後数年で導入の検討が進むか（高大接続システム改革）
 - 「テストの公平性」という課題

CBT SWGの活動

- これまでの活動
 - CBTに関する基礎的な情報の共有・勉強会
 - CBT会場の見学
- これからの活動(案)
 - IRT実践勉強会
 - CBT導入で新たに可能になる問題形式の検討
 - CBT普及に向けて考慮すべき業界規格に関する調査